

地球の祝祭 Earth Celebration

アース・セレブレーション2005



佐渡の豊かな自然を舞台に、日本や世界で鼓童が出会った音楽・芸能や人々をお招きして、新しい地球文化を探る国際芸術祭「アース・セレブレーション2005」が、8月19日(金)から21日(日)の3日間、小木地区を会場に盛大に開催されました。

鼓童の打出す太鼓の音色は、心を震わせ魂を揺り動かす魅力を感じさせてくれます。

今年のゲストである、カルロス・ヌニェス(スペイン北西部ガリシア出身のバグパイプ奏者)が率いる、ガイタ・ブズーキ・フィドル・

パーカッションという4人編成のバンドが奏でる軽快な音色が融合し、互いを尊重しあい、心地よいリズムダンス音楽を完成させていました。

また、書家の柿沼康二氏による力強い書が、コンサート中にしたためられつり上げられると、場内に大きな歓声がわき起こりました。

島内外からの人々が参加して、EC期間中にところ狭しと繰り広げられた、特別フリンジやワークショップでは体験を通じて、より身近にECを感じることができる趣向となっていて、普段の生活とは違

った感情を呼びさますことができました。



18回目を迎えたECに集った延べ10,000人の内、8割は島外からの人々でした。

鼓童ファミリーと自負する多くの方は、一年間待ち続けたコンサートに参加

して、心からの満足感と、最終日のジョイントコンサートの終演を告げるアナウンスに、名残を惜しみつつ、会場を離れて行きました。口々に再会を誓い、握手を交わす手に、想いのバトンが受け継がれてゆく様子に、来る、19回目の盛大な開催を予感させてくれました。



(写真:宮川舞子、田中文太郎)